

経営比較分析表（令和6年度決算）

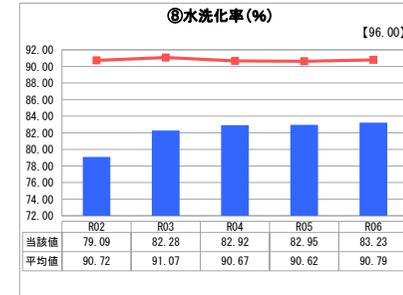
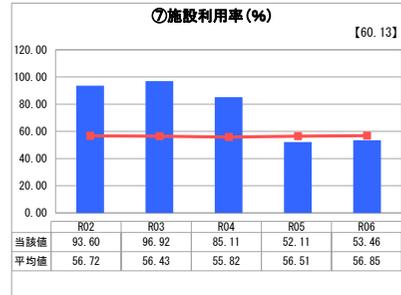
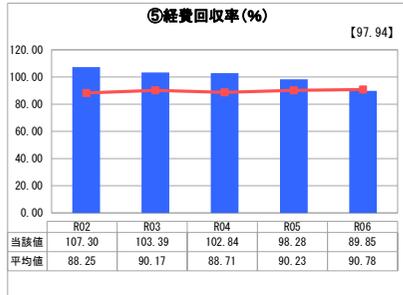
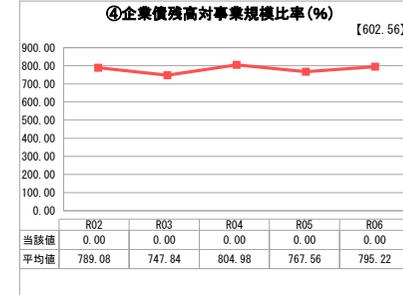
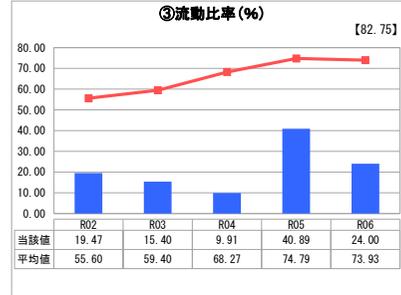
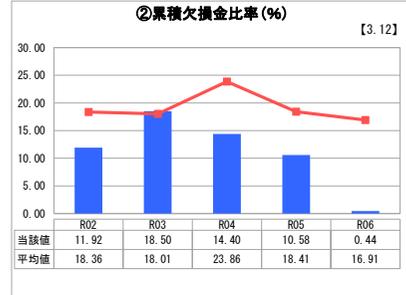
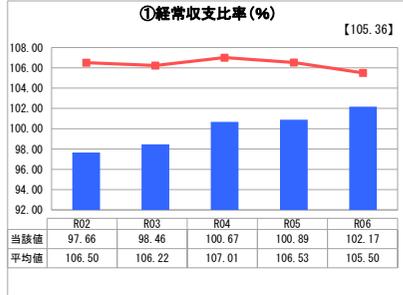
岡山県 井原市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Cc1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	66.39	55.34	79.24	2,739

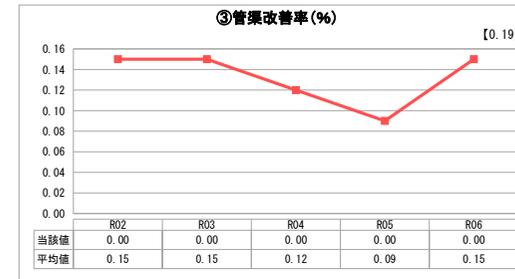
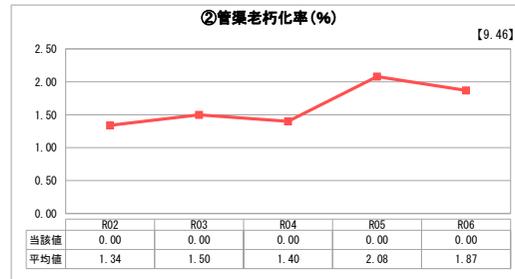
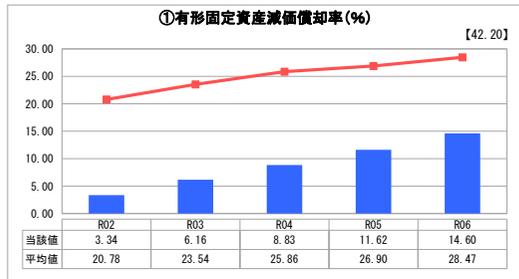
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
36,670	243.54	150.57
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
20,138	7.36	2,736.14

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
[] 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率(グラフ①)は100%を上回っており、累積欠損金比率(グラフ②)も昨年度より減少しているが、一般会計補助金に依存している結果である為、引き続き経営改善を図っていく必要がある。

流動比率(グラフ③)は100%を大きく下回っているため、使用料等の収入を増やす必要がある。

経費回収率(グラフ⑤)は、100%を下回っているため使用料で賄うべき経費を賄えていない状況である。そのため経費の削減や、下水道接続率の向上および使用料改定等により使用料収入を増やす必要がある。

汚水処理原価(グラフ⑥)が、類似団体平均を下回っているが、昨年度より増加しているため、維持管理費の削減、下水道接続率の向上により有収水量を増加させる必要がある。

施設利用率(グラフ⑦)は、昨年度より処理水量の減少が要因で減少していたが、今年度は微増している。引き続き、下水道接続率の向上により有収水量を増加させる必要がある。

水洗化率(グラフ⑧)は、毎年、微増しているが、類似団体平均を下回っているため、水洗化率向上のために、未接続家庭に対し積極的な下水道接続の推進を図る必要がある。

2. 老朽化の状況について

平成元年度に供用開始して以来、既設管渠の事故等はないが、施設は稼働から30年以上経過しているものもあり、計画的に施設・管渠の長寿命化を図るとともに、地震等の災害に対応するため、施設・管渠の耐震対策を進める必要がある。

こうしたことから、ストックマネジメント計画を策定することで優先順位等を明確にし、施設の改築、管渠・マンホール点検診断等を計画的に実施している。

全体総括

一般会計からの繰入金に対する依存度が高く、使用料収入も少ないため、下水道接続の推進や、使用料の改定が必要である。

また、計画的に管路整備、施設整備を進めるとともに既存施設の長寿命化を図る必要があり、持続可能な経営の安定化を図るために経費削減を継続的に行う必要がある。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。

経営比較分析表（令和6年度決算）

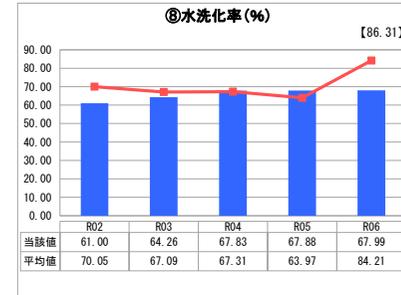
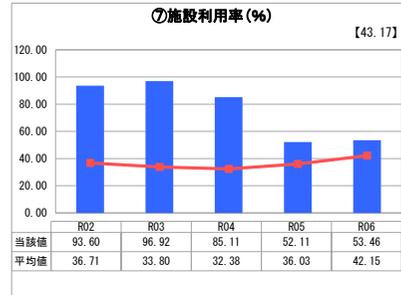
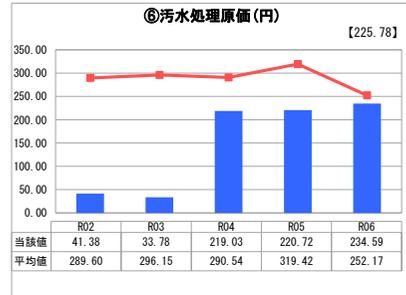
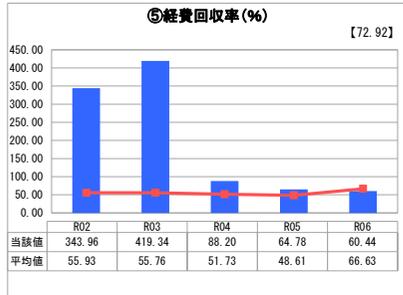
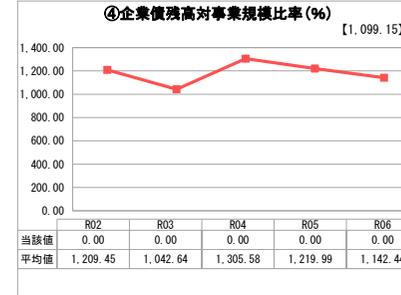
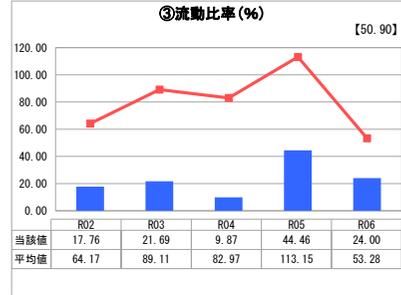
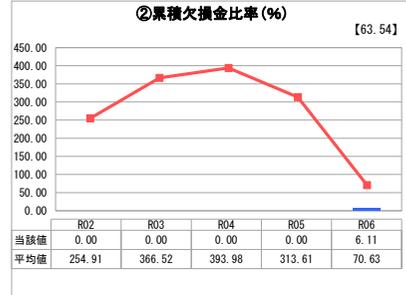
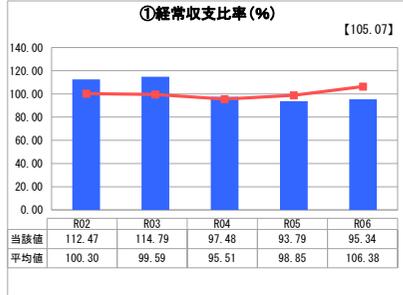
岡山県 井原市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡ [※] 当たり家庭料金(円)
-	66.39	5.04	79.24	2,739

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
36,670	243.54	150.57
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
1,834	0.72	2,547.22

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
[] 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率(グラフ①)及び流動比率(グラフ③)は、100%を下回っているため、経費の削減や、下水道接続率向上および使用料改定等により使用料等の収入を増やす必要がある。

経費回収率(グラフ⑤)は、100%を大きく下回っているため、使用料で賄うべき経費を賄っていない状況である。そのため経費の削減や、下水道接続率向上および使用料改定等により使用料収入を増やす必要がある。

汚水処理原価(グラフ⑥)が、類似団体平均を下回っているが、昨年度より増加しているため、維持管理費の削減、下水道接続率の向上により有収水量を増加させる必要がある。

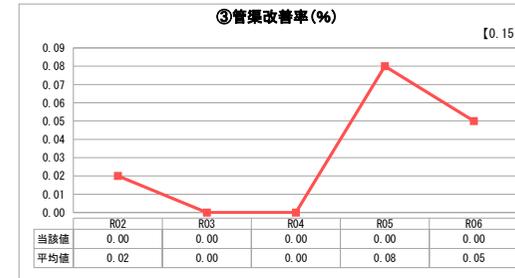
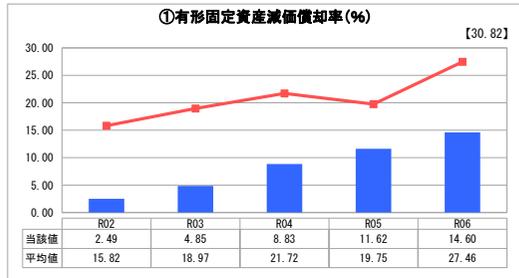
施設利用率(グラフ⑦)は、昨年度より処理水量の減少が要因で減少していたが、今年度は微増しているが、類似団体平均を下回っているため、水洗化率向上のために、未接続家庭に対し積極的な下水道接続の推進を図る必要がある。

水洗化率(グラフ⑧)は、毎年、微増しているが、類似団体平均を下回っているため、水洗化率向上のために、未接続家庭に対し積極的な下水道接続の推進を図る必要がある。

2. 老朽化の状況について

平成21年度供用開始して以来、既設管渠の事故等はなく、老朽化は進んでいないが、ストックマネジメント計画を策定することで優先順位等を明確にし、施設の改築、管渠・マンホール点検診断等を計画的に実施している。

2. 老朽化の状況



全体総括

一般会計からの繰入金に対する依存度が高く、使用料収入も少ないため、下水道接続の推進や、使用料の改定が必要である。

また、計画的に管渠整備、施設整備を進めるとともに既存施設の長寿命化を図る必要があり、持続可能な経営の安定化を図るために経費削減を継続的に行う必要がある。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。